

トイレに対する考え方の変化

杉野由可子

1. はじめに

トイレは日常生活になくてはならない存在だ。そこで今回のスタディツアーでは韓国のトイレ事情について調査した。

日本が韓国を訪れ、最初に戸惑うのはトイレではないだろうか。韓国は日本と違ってトイレットペーパーを流さない。これは、韓国旅行「コネスト」で次のように説明されている。

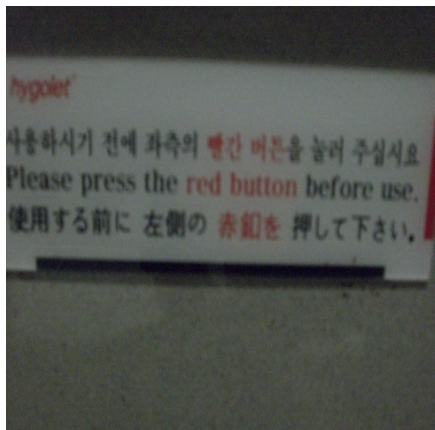
50～60年代、紙自体が貴重でトイレットペーパーが無かった頃、田舎では稲藁やカボチャの葉っぱ、セメントの包装紙、新聞紙、雑誌、カレンダーなどがトイレットペーパーのかわりに使われた！70年代以降、白いロールペーパーが生産されトイレットペーパーとして使われるようになったが「トイレには廃紙を使う」という昔ながらの考え方から、ちり箱に捨てるという風習は今でも残っているといえる。

韓国旅行「コネスト」トイレ事情

最近の家庭やホテルでは水に流せるトイレットペーパーを使うところも増えてきたが、まだまだトイレの横に大きなごみバケツを置いているトイレが主流だ。

2. 生活の中のトイレ

韓国に着いてまず仁川空港のトイレに向かった。空港のトイレは様々な国の人が利用するため、トイレの除菌には特に気をつけているようだった。写真にあるように「사용하시기 전에 좌측의 빨간 버튼을 눌러 주십시오. 使用する前に左側の赤鈕を押してください。」とトイレのドアを入るとすぐ見えるように書いてあり、ボタンを押すと便座についているビニールが入れ替わって、常にきれいな便座に座ることができるようになっている。



また、便器に座ると正面には右のような注意書きが掲示されていた。一番大きく「금연」と書かれており、禁煙のマークもあるので、禁煙についての文章が書かれているのだと思えば、内容は「변기 안에는 비치된 화장지 외에 다른 이물질은 버리지 마세요. 변기 막힘의 원인이 됩니다. 便器の中には設置されたトイレットペーパー以外に他の異物を捨てないで下さい。便器詰まりの原因になります。」という少し異なった内容だった。



2日目の国立中央図書館（デジタル図書館）では地下1階から4階までのトイレを調査した。5階分のトイレの写真を撮って気づいたのだが、上の階に上がっていくごとにトイレのデザインが派手になっている。地下1階は白色を基調としたシンプルなデザイン、1階は黒色、2階は赤色と茶色、3階は茶色、4階は茶色と灰色のチェックを基調としていた。地下1階と地上1階はパソコンや電子機器が一带に並ぶデジタル図書館であるため、硬く冷たいイメージのある白・黒・シルバーを基調としているようだ。一方で2階以上は本がずらっと並んでいて実際に手に取って見ることができるため、木の暖かさを感じさせる赤色や茶色を使った配色になっているのではないだろうか。



↑ 地下1階



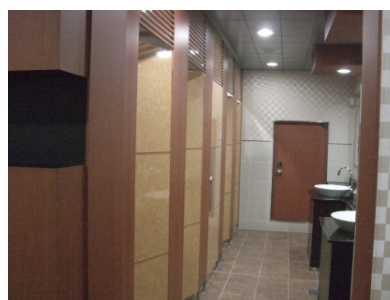
↑ 1階



↑ 2階



↑ 3階



↑ 4階

トイレのデザインに合わせて、洗面台も変化していた。地下1階、2階、4階の洗面台を比べると、上の階に上がるごとにデザインが凝ったものになっていることがわかる。



左から順に地下1階、
2階、4階



図書館のトイレには洗面台の部分だけでなく、1階のようにトイレのドアを開けたところに化粧をしたり身だしなみを整えるための鏡があったり、2階にはトイレの入り口を入っすぐのところに大きな鏡があった。

また、日本では障害者用トイレは男性用・女性用トイレとは別に障害者用トイレが設置されていることがほとんどだ。しかしこの図書館の障害者用トイレは女性用トイレの中に設置されていた。男性用トイレの中を見ることは不可能なので確認することはできなかったが、おそらく男性用トイレの中にも障害者用トイレが設置されているのだろう。ただ問題なのは、障害者用トイレの中は広がったのだが、ドアを開けると洗面台についている手すりが邪魔をして、車いすでは非常に通りにくい設計になっていたことだ。

昼食で訪れたデパートでは、用を足すというトイレ本来の目的よりも化粧をしたり身だしなみを整えたりする人の姿のほうが目立っていた。実際、写真のようにトイレの中には大きな鏡が設置されており、その前にはあふれるほど人がいた。



身だしなみを整
える人々→

2日目の午後に行った教保文庫のトイレは白とシルバーの落ち着いた感じのデザインだった。汚い印象は全くなくむしろ清潔で、奥にはきれいな絵が飾ってあった。NANTAの劇場のトイレは少し古い感じがしたが、壁や洗面台は黒を基調としたシックなデザインになっていた。

教保文庫のトイレ



3日目の民俗村ではトイレも民族的なデザインだった。男性用・女性用・障害者用にわかれているのだが、トイレの表札の男性と女性は韓服を着ていた。トイレの入り口の扉も昔の建物に使われているような扉で、民俗村の景観に合うデザインだった。



チムジルバンの中にある女性専用アロマ睡眠室のトイレは他の階にあるトイレとは違って、ドアも洗面台もおしゃれなデザインだった。アロマ睡眠室という癒し空間を邪魔することなくむしろその場に馴染んでいて、トイレとは思えないほど落ち着く空間を生み出していた。



3. まとめ

今まで生活していてトイレをじっくり観察することはなかったが、よく見てみると利用者に応じて、トイレに備えている機能を若干変えていることが明らかになった。例えば、デパートの中にあるトイレは食後に化粧を直すための化粧台があり、しかも買い物をした荷物を置けるように台が設置されている。また、民俗村では赤ん坊を連れて訪れる人も多いため、トイレにはおむつの交換台も設置されていた。一方で図書館は赤ん坊を連れてくることはほとんどないため、おむつの交換台を見ることはなかった。また、デザインもその場に合うように考えられており、トイレが周りと一体化している。

4日間トイレを調査していると、自由に水分補給ができる冷温水器がトイレの外に設置されている所が多いということに気がついた。図書館では1つの階ごとに2つトイレが設置されていたのだが、両方のトイレの前に冷温水器があった。以前までのトイレは“汚い・臭い”というイメージだったが、今ではきれいで清潔なものと考えられるようになったのだろう。

韓国にいる間トイレを見てまわったがすべてトイレは洋式便座で、和式便座は1つもなかった。有料トイレもあると聞いていたが、今回のスタディツアーでは見つけることができなかった。

トイレを見ると、人々の考え方の変化やトイレ本来の機能以外に求めるものが見えてくる。トイレはどこにでもあるものなので、次回韓国を訪れたときもトイレに;



空港のトイレ

4. 参考

韓国旅行「コネスト」『トイレ事情』

http://www.konest.com/data/korean_life_detail.html?no=1016 (2009.8.25 取得)